

31L-pm03

四塩化炭素により誘発される肝障害に対する鍼灸の効果

○爾見 樹里¹, 棚橋 伸行², 米田 操³, 石田 寅夫^{1,2} (1^{鈴鹿医療大鍼灸学部,} 2^{鈴鹿医療大東研,} 3^{三重大院医})

【目的】四塩化炭素(CCl₄)は肝細胞内の薬物代謝酵素によってラジカルを発生させ、肝細胞の変性や壊死を惹起させるので、急性肝障害、肝硬変などの病態モデル動物を作製するのに利用されている。一方、鍼灸は運動器系の痛みだけでなく、消化器系、呼吸器系疾患など様々な症状に効果があり、その中でも慢性肝障害に対して陽陵泉(GB34)へ刺鍼すると効果があることが報告されている。そこで今回、あまり報告されていない急性肝障害における GB34 への刺鍼の効果について研究を行った。**【実験方法】**SD系雄性ラット10週齢を用いて4つのグループに分けた。刺激当日、2群にはオリーブ油で溶解した四塩化炭素(CCl₄投与)を20 mmol/kg BWの濃度で、残りの2群には、オリーブ油(対照)を腹腔内へ投与した。その後4時間毎に、各々の群に対してGB34とsham(非経穴)に直刺し、CCl₄投与24時間後に麻酔下で開腹し血液と肝臓を採取した。血液から血清を分離しAST・ALT活性と総コレステロール濃度を測定し、肝臓に関しては肝組織中の過酸化脂質濃度(TBARS濃度)を測定した。一部の組織は、組織学的変化を染色にて解析した。

【結果と考察】血中AST及びALT活性について解析した結果、GB34(CCl₄投与)はSham(CCl₄投与)に比較して有意に抑制された。一方、肝臓で合成されるコレステロールの血中濃度及び肝臓中のTBARS濃度は、Sham(CCl₄投与)に比較してGB34(CCl₄投与)でやや抑制傾向が認められたが有意差はなかった。また、肝臓の組織を染色するとGB34(CCl₄投与)とSham(CCl₄投与)の間で組織学的に少しの変化しか認められなかった。これらの解析結果から、GB34に刺鍼すると肝障害を改善する傾向があるが、刺鍼単独では十分ではないと考えられる。今後、この肝障害に対しての効果の作用機構について解明する必要があると考えている。